

「コンパッションコミュニティ」としての地域づくり



浅間山フェス

浅間山フェス
居場所づくり
地域共生

DATA

- **主な連携先・メンバー**
堺市堺区／浅香山連合自治会／NPO 法人 kokoima／社会福祉法人堺福祉会ハートピア堺／公益財団法人総合病院 浅香山病院
- **活動地域**
大阪府堺市
- **活動期間**
2018 年度～継続中
- **活動資金**
堺市と関西大学との地域連携事業

目的

地域の多様な人々が互いを尊重しながら学び合い支え合う「コンパッションコミュニティ」を創出し、大学発の地域共生モデルとして持続可能な地域づくりの価値を示す。

連携に至る経緯

2018 年から浅香山地区の NPO 法人 kokoima や浅香山 GENKI プロジェクトと連携して「香ヶ丘商店街を中心とした浅香山地区のまちづくり」を開始し、2022 年度からは堺キャンパスが拠点となって子ども、高齢者、障がい者、在日外国人を含めた地域住民が交流し、多様な人々が集うインクルーシブなまちづくりに取り組んできた。

活動内容

2024 年 5 月から堺キャンパス、浅香山商店街などの浅香山地区を中心に認知症カフェの出張開催、近隣の商店街での屋台販売、街歩き調査、NPO 法人とのコラボで古着リサイクル、地域の自治会と一緒に七夕・かき氷などの季節行事、SDGs 教育イベント、能登支援マーケット、浅香山フェス等、多くの活動を企画・運営した。

世代・文化・背景の異なる人々が自然に交わる環境を創出した。学生は企画運営・調査・広報を担当し、地域課題の理解と協働スキルを獲得。大学・自治会・商店街・福祉団体が連動することで、地域共生の新たなモデルとしての広がりが見られた。



街歩き調査



七夕 星に願いを



古着リサイクル

活動の成果

- ≫ 浅香山地区を端緒に堺区に関わるより多くの人たちの自主的な地域づくりと結びつけ
- ≫ 学術機関としてアクションリサーチも織り交ぜながらひとつのパースペクティブのもとで理論付け
- ≫ 大学発の地域共生モデルとしての認知度が向上

今後の課題・目標・展開の可能性

- ≫ 地域拠点化を進め持続的な参画循環を構築
- ≫ 外部資金と研究成果を連動させ発展を加速
- ≫ 多面的評価を整備しブランド価値をさらに強化

連携先からの一言

ケアを必要としている高齢者が施設を出て、大学でお菓子を配りながら学生に声をかける、それだけのことがお互いの心に残り、また来るねと約束をして、地域がゆるく繋がってゆく。関西大学から幸せが広がっています。

(社会福祉法人堺福祉会ハートピア堺 光永 直子氏)

人間健康学部 教授 村川 治彦 Murakawa Haruhiko



身体性とケアを軸に、自治体と協働して地域課題の可視化と支援モデル構築を進め、住民のウェルビーイング向上に資する実践研究を展開している。

